

八王子市総合防災訓練に参加しました。

平成30年10月28日、八王子市松が谷の大塚西公園において、八王子市医師会防災訓練が行われました。この訓練は隣接する松が谷中学校での八王子市総合防災訓練に合わせて行われたもので参加者は八王子市医師会々員の開業医の先生をはじめ、市内医療機関に勤務する医師・看護師・事務職また市職員や市薬剤師会など総勢140名ほどの参加があり、当院からは市医師会防災委員会副委員長の益子邦洋院長、同じく防災委員である朽方医師をはじめ、他14名の職員が参加を致しました。



この日の訓練は多摩地方を直下とする大地震が発生、多数の傷病者が発生したとの想定のもと、東京都や八王子市が積極的に推進している緊急医療救護所の設置とその中での運営方法などを中心に行いました。



訓練開始とともに傷病者役に扮した市看護学生が投入され、医師をチームリーダーとして看護師、事務職などが一つのチームとなり、傷病者の対応を行います。

最初に、トリアージ班が傷病者の呼吸数や意識状態等の観察により重症度や緊急度を判断する、スタート法による一次トリアージを行ないます。その後、トリアージタグにより軽症の緑群、中等症の黄群、重症の赤群に判別された傷病者を、搬送班が黄色と赤色の各エリアへ搬送、各エリアでは酸素吸入や輸液などの初期医療と合わせて二次トリアージの実施や薬剤処方等を行います。また、仮想院内へ搬送された後の院内収容先を決定する訓練など、まさに実戦さながらの訓練を行いました。



訓練に参加した当院職員からは市内医療従事者が連携して訓練を実施することで地域の協力体制を強化できることは勿論、こうした訓練を積み重ねていくことでいざ本番になっても慌てることなく対処できるのではとの感想が聞かれました。

当院では今後も職員の実践的訓練の参加を図ることで地域の皆様と強い繋がりを持ち、発災時に具体的にどのような行動をとるべきかなどについて、医療従事者としての理解を深めていくことで災害への備えを確かなものにしていきます。

